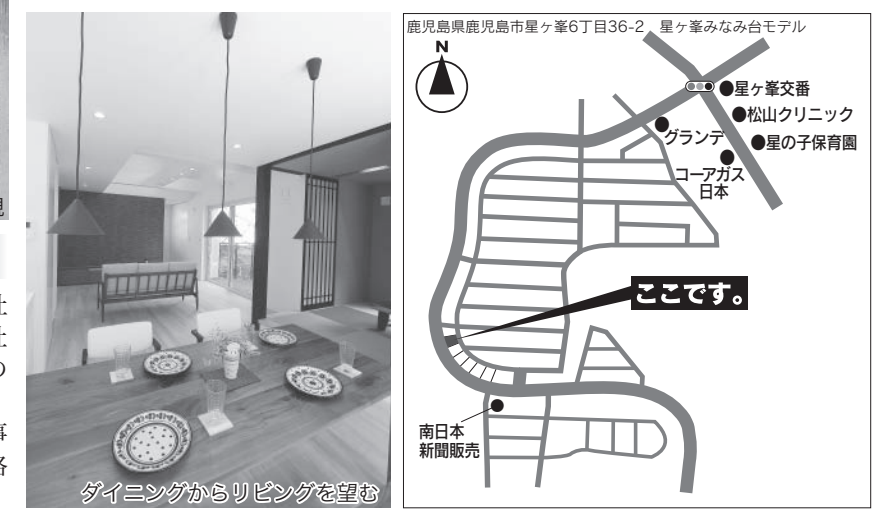


# 自立循環型「プラス・エネルギー・ハウス」展示場公開中! 星ヶ峯展示場OPEN 公開中!



他社の住宅と、是非比較してご覧下さい。違いが分かります!

2020年の省エネルギー義務化を前に、星ヶ峯に出店している各社とも高性能住宅を建てて競っています。この機会をお見逃し無く各社の住宅を体感し、比較してご覧になることをお勧め致します。住宅の性能は体感することで初めて分かります。これから夏を迎えますが、エアコンの効き具合や空気質の体感など、様々な部分に気づかれる事があると思います。冷たすぎず爽やかな感じのする空調であれば合格点が上げられます。是非、体感して比較してみてください。

# 住宅は躯体構造が最も大事、エアコン1台のシンプルな姿をご覧ください。 自立循環型住宅川内展示場公開中!



住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089

# 省エネ住宅

省エネルギー技術だけでなく誰でもできる時代になりました。今、問題になっているのは、命を守ることもできる住宅性能への転換です。

## 省エネ性能から健康を守る住宅に、価値観の大転換?

地球温暖化防止のためには、化石燃料の大幅な削減が必要です。また、限りある化石燃料は資源の減少と共に確実に値上がりしていきま。家庭で使用される暖冷房エネルギーの削減は、これからこの地球に生きていくすべての人類にとって、他人事では済まされない重要な問題です。産業革命以来、人類はすさまじい勢いで化石燃料を燃やし地球環境を汚し続けてきました。ヨーロッパやアメリカ、日本などは、酸性雨に見舞われ森林を枯らし、魚の棲めない湖沼を沢山出現させました。しまいに大気汚染による公害病まで発生させ、ようやく地球環境まで大切にや資源の有限性に気がきました。

第2位の経済大国となった中国などの例でも分かる通り、公害をまき散らして経済発展を実現しても、大気汚染や水質汚染など取り返しのつかない環境破壊を起すことは、経済発展になんの価値も尊敬も生まれません。1995年から毎年開催されているCOP(気候変動枠組条約締約国会議)に意味があるのは、各国の実情を踏まえながら、協力して方向性を見いだそうという姿勢です。

欧米では住環境が人体に与える影響についての考察から、冷暖房効果が高く省エネルギー性能に優れている住宅は、人間を自然環境から守り、特に気候が関係する病気や成人病の発症に對する予防効果のあることが明らかになってきました。特に寒冷地に位置している北ヨーロッパでは、住宅の寒さが健康に与える悪影響は常識とされ、研究も進んできました。WHO(世界保健機関)からも住宅の温暖環境が健康を守るという側面からNEEBで温暖環

境の快適な室内環境の確保が重要だと報告されています。住宅の高断熱化が遅れていた日本でも、結露やヒートショックなどによる健康への悪影響が広く知られるようになり、快適な居住環境で健康な暮らしをめざす「健康維持増進住宅」の研究も進んでいます。

国土交通省は、東京大学名誉教授で日本建築学会会長や建築研究所理事長を歴任した村上周三建築環境・省エネルギー機構(I・B・E)理事長を委員長として「健康維持増進住宅委員会」を開催し、我が国のNEEB(ノンエナジー・ペネフィット)住宅と健康の問題を研究、検討しています。

このような議論ではドイツやイギリスなどと比較しても暖房費をそれほど使用してこなかった我が国では説得力が低く、住宅性能を比較してみても欧米では無暖房住宅やゼロ・エネルギー住宅が主流にもかかわらず、我が国では5000万戸の既存住宅の内、次世代省エネルギー基準の性能を満たす住宅ですらその1割にも満たないことが指摘されています。

これは単に日本の住宅が性能的に劣っているというわけではなく、欧米のように高緯度に位置し寒さ対策の暖房が主で、冷房を必要としない地域とは全く異なることも計算に入れておかなければなりません。

兼好法師が徒然草で「家の造り様は夏を旨とする」と言ったのも、底冷えのするような京都の冬でも火を焚いて暖房さえすれば何とかなるが、蒸し暑さだけはどうしようも出来ない、だから夏の対策を第一にして造った方が良いと言ったことから出てきた言葉です。

高断熱・高気密住宅の必要性を説くと必ず、子供達が寒さには耐性の無い軟弱な身体に育つのではないかと心配する方がいますが、精神修養で真冬の海に飛び込んだり、滝に打たれるのは医者に言わせれば愚の骨頂「百害あって一利無し」、むしろ危険さあまりないといわれます。成人の場合も脳卒中や心臓病の発症原因になりますし、身体を冷やすことで様々な疾病の原因を造ってしまいます。たくましく強く育てるためには、寒さとも適切な温度管理の下で、運動が出来る快適な環境を与えた方がよほど元気な子供が育ちます。

# EB(エナジー・ペネフィット)からNEEB(ノンエナジー・ペネフィット)へ!

認定長期優良住宅や認定低炭素住宅に優遇。



「認定長期優良住宅」や「認定低炭素住宅」に優遇。欧米では住環境が人体に与える影響についての考察から、冷暖房効果が高く省エネルギー性能に優れている住宅は、人間を自然環境から守り、特に気候が関係する病気や成人病の発症に對する予防効果のあることが明らかになってきました。特に寒冷地に位置している北ヨーロッパでは、住宅の寒さが健康に与える悪影響は常識とされ、研究も進んできました。WHO(世界保健機関)からも住宅の温暖環境が健康を守るという側面からNEEBで温暖環

境の快適な室内環境の確保が重要だと報告されています。住宅の高断熱化が遅れていた日本でも、結露やヒートショックなどによる健康への悪影響が広く知られるようになり、快適な居住環境で健康な暮らしをめざす「健康維持増進住宅」の研究も進んでいます。国土交通省は、東京大学名誉教授で日本建築学会会長や建築研究所理事長を歴任した村上周三建築環境・省エネルギー機構(I・B・E)理事長を委員長として「健康維持増進住宅委員会」を開催し、我が国のNEEB(ノンエナジー・ペネフィット)住宅と健康の問題を研究、検討しています。

このような議論ではドイツやイギリスなどと比較しても暖房費をそれほど使用してこなかった我が国では説得力が低く、住宅性能を比較してみても欧米では無暖房住宅やゼロ・エネルギー住宅が主流にもかかわらず、我が国では5000万戸の既存住宅の内、次世代省エネルギー基準の性能を満たす住宅ですらその1割にも満たないことが指摘されています。

高断熱・高気密住宅の必要性を説くと必ず、子供達が寒さには耐性の無い軟弱な身体に育つのではないかと心配する方がいますが、精神修養で真冬の海に飛び込んだり、滝に打たれるのは医者に言わせれば愚の骨頂「百害あって一利無し」、むしろ危険さあまりないといわれます。成人の場合も脳卒中や心臓病の発症原因になりますし、身体を冷やすことで様々な疾病の原因を造ってしまいます。たくましく強く育てるためには、寒さとも適切な温度管理の下で、運動が出来る快適な環境を与えた方がよほど元気な子供が育ちます。